

OECC

発表者:反本 啓介 / 田中 大輝

1. 会議の概要

- 名称:  
The 15th OptoElectronics and Communications Conference (OECC2010)
- 主催／共催機関:  
IEICE Communications Society  
IEICE Eletronics Society  
IEEE Photonics Society  
OSA
- 開催場所:  
Sapporo Convention Center (Sapporo, Japan)
- 日時:  
5 - 9 July. 2010
- 発表件数:  
○ oral 299(うちInvited:100)/poster 148
- 概要:  
光エレクトロニクス・光通信分野について幅広く取り扱う学会であり、今回で15回目となる。今回のカテゴリ構成は以下の通り。  
1)Core/Access Networks and Switching Subsystems  
2)Transmission Systems and their Subsystems  
3)Optical Fibers, Cables and Fiber Devices  
4)Optical Active Devices and Modules  
5)Optical Passive Devices and Modules

2. 発表内容

- 反本 啓介 ( *Keisuke Sorimoto* )  
**Title:** "Polarization Insensitive Wavelength Selective Switch Using LCOSs and Monolithically Integrated Multi-Layered AWG"  
**Session:**"Glass/Polymer Waveguide and Switching Devices" No. 6E2-4

**発表概要:**

波長選択スイッチ(WSS)用多層AWGをモノリシックに作製し、AWG→別層AWGへの偏波無依存なスイッチング動作を確認した。

**反響と感想:**

慶應大-(独)産総研-日立電線(株)間の共同研究である光通信用波長選択スイッチの開発に関する成果報告を行った。  
通常の導波路デバイスは二次元方向にのみ回路が展開されているのに対し、本研究の提案するデバイスは三次元導波路構造を含むため、多くの聴衆の方々に研究内容を理解してえるようスライド作成に工夫が必要であったし、発表当日は制限時間内での説明に苦労した。今回は3D静止画像を多用したこともあり、過去3回の国際会議に比べれば徐々にわかりやすいプレゼンができるようになってきていると自分では思うが、今後はよりスムーズな説明のため、英語力向上も当然ながらヴィジュアルな表現力向上(3D動画など)にも励みたい。  
セッション中に出た質問は「挿入損失は?」「設計パラメータは?」「積層数の目標値は?」の3件であった。損失や積層数などの達成度は実用レベルから見ればまだまだであったので、今後のモチベーションとなった。  
また、セッション後に、某企業の研究者の方に「あのような珍しい導波路構造は初めて見たよ!」とのコメントもいただき、自分の研究に興味を持ってもらえたようで嬉しかった。

- 田中 大輝 ( *Daiki Tanaka* )

**Title:** "Low-Crosstalk Offset Crossing Waveguide Fabricated on SOI Substrates"

**Session:** "Silicon Photonics IV" No. 9E2-3

**発表概要:**

産総研で試作したオフセット交差導波路チップの測定結果 (TEモード) について報告

**反響と感想:**

オーラルはLEOSに続いて2回目の発表となります。研究者として多少成長したとは思いますが、まだまだプレゼンテーション能力不足を感じました。

質問は「方向性結合器と比較したときの利点は？」「偏光を変えるとどうか？」の2点。また発表後に中国の方からいろいろと質問を受けて反本さん、庄司さんらと一緒に議論しました。

会議自体は国内だったので、日本人の参加者が半分ぐらいいたと思います。その点ではリラックスして過ごせました。ただ最終日の発表だったので会期中はなかなか気が抜けなかったです。